

根石岳からオーレン小屋までの登山道は緩斜面を通過しており、周辺にはシラビソ林が分布している。このシラビソ林の林内は写真 4-44 に示すように比較的暗く、林床にはあまり草本が生育していないことから、シカの餌資源は少ないと考えられる。このため、シカの食害はほとんど見られず、被害ランクをDとした。



写真 4-34 東天狗岳より西天狗岳、根石岳を望む  
高山低木群落や高山ハイデ及び風衝草原が分布している



写真 4-35 黒百合ヒュッテ南側の平坦地  
湿地になっている



写真 4-36 黒百合ヒュッテ南側の湿地  
イネ科草本が優占する



写真 4-37 黒百合ヒュッテ北側の湿地  
バイケイソウが点在する



写真 4-38 中山峠から天狗岳の崖下（東側）  
草丈が不揃いなイネ科草本が優占する



写真 4-39 中山峠から天狗岳の崖下（東側）の草地；全景

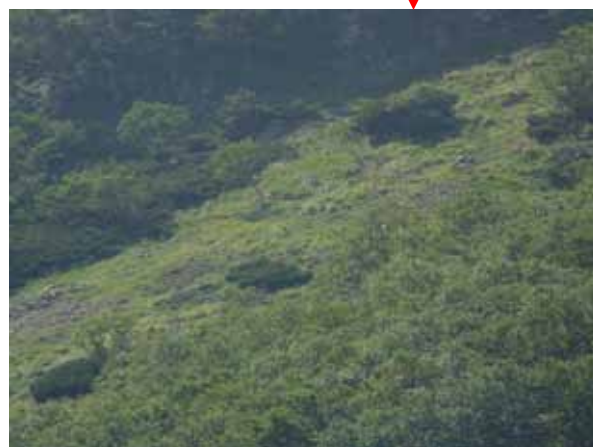
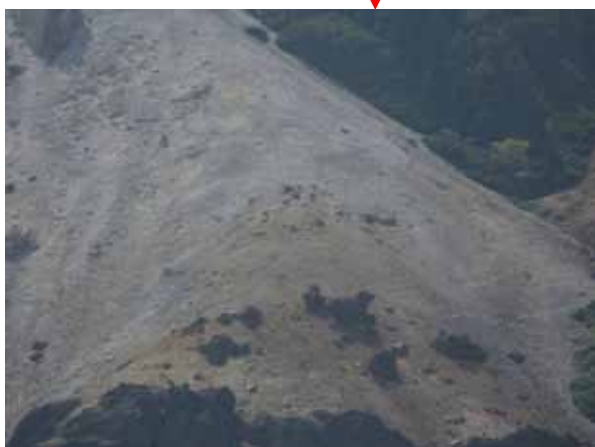


写真 4-40 根石岳下の草地及びシカ道の状況



写真 4-41 天狗岳南部の鞍部における食害  
コマクサの花軸から先が食害を受けている



写真 4-42 天狗岳南部の鞍部における食害  
イワハタザオが食害を受けている



写真 4-43 天狗岳南部において確認された  
シカのねぐら



写真 4-44 シラビソ林の状況

#### 4-2.3 みどり池入口からしらびそ小屋、中山峠

みどり池入口から中山峠に至る登山道の周辺は、写真 4-45 に示すようにコメツガやシラビソを主体とした針葉樹林が主に分布している。林内はやや暗く、林床にはシラビソやコメツガの実生以外の植物は主にシダ類が生育している。オシダをはじめとして、シダ類は他の箇所ではシカの食害を受けているのが確認されたが、当該箇所においてはシダ類がシカの食害を受けている痕跡はほとんど見られず、被害ランクをDとした。なお、みどり池入口近辺の小規模な池においてシカを目視したが、写真 4-46 に示すように食害はほとんど確認されなかった。

ただし、みどり池入口近辺の溪流沿いの登山道やみどり池周辺の平坦地においては、写真 4-47、写真 4-48 に示すようにヤツタカネアザミ、オシダ、イワノガリヤス、ヒメスゲ等がシカの食害を受けているのが確認されたため、被害ランクをCとした。

また、みどり池周辺やみどり池西側のシラビソ林内に存在するギャップ、中山峠手前の草地においては、写真 4-49～ 写真 4-52 に示すようにシカの食害が確認されたり、植生の密度が異常に低下したりしている状況が確認されたため、シカの食圧が高いと判断し、被害ランクをBとした。特に、みどり池周辺においては写真 4-53 に示すようにシカが嫌うクリンソウが優占している状況が確認された。現状ではクリンソウの群落は比較的小規模であるが、今後シカの食害が継続した場合、他の植物が徐々に消失し、代わってクリンソウがその勢力を拡大する、すなわち、被害ランクがAに移行することが考えられる。



写真 4-45 登山道沿いの林内の状況  
シカの食害は見られない



写真 4-46 みどり池入口近辺の小規模な池  
シカの食害は見られない



写真 4-47 登山道沿いのヤツタカネアザミ  
の食害状況



写真 4-48 登山道沿いのオシダの食害状況



写真 4-49 みどり池における食害  
イネ科草本が食害を受け刈込まれている



写真 4-50 みどり池周辺の剥皮の状況



写真 4-51 みどり池西側のギャップ  
林床に植生がほとんど生育していない



写真 4-52 中山峠手前の草地  
イネ科草本が食害を受け刈り込まれている



写真 4-53 みどり池周辺におけるクリンソウの  
生育状況



写真 4-54 稲子岳全景

#### 4-2.4 稲子岳及び凹地

稲子岳の南東部は写真 4-54 のように裸地から崖となっているが、写真 4-55～写真 4-58 に示すようにコマクサやオンタデ、ミネヤナギ、ヒメシャジン等がシカの食害を受けている状況が確認された。また、写真 4-59 に示すように、食害を受けていなかったヤマホタルブクロも矮小化しており、シカの食圧が高いことがうかがえる。このため、稲子岳における被害ランクはBとした。

稲子岳西側の平坦地は凹地（おうち）と呼ばれている。凹地においては、写真 4-60、写真 4-61 に示すようにダケカンバにディアラインが顕著に表れており、周辺のシラビソにも剥皮が多く認められた。また、写真 4-62 に示すように生育している草本のほとんどがシカの食害を受け、主にシロバナヘビイチゴやヒメノガリヤスが芝生状に生育しているのみである。写真 4-63 に示すように、他の箇所においてはあまり食害を受けていなかったバイケイソウも食べ尽くされていることから、当該箇所はシカが頻繁に出入りし、ほとんどの植物を摂食している状況がうかがえる。

凹地は尾根部に挟まれた谷状の地形であり、本来は水分条件も良く、多様な草本が生育していたと推測される。実際に、個体数は極端に少ないが、ヨツバシオガマ、ニョホウチ

ドリ、ミヤマセンキュウ、シナノオトギリ、ミツバオウレン、ミヤマコウボウ、マイヅルソウ等の草本の生育も確認された。しかし、これらの植生はシカの食害を継続的に受け現在では衰退している。このように、当該地においてはシカの食害により植生が大幅に変化したことが考えられることから、被害ランクをAとした。



写真 4-55 稲子岳におけるコマクサの食害状況



写真 4-56 稲子岳におけるオンタデの食害状況



写真 4-57 稲子岳におけるミネヤナギの食害状況



写真 4-58 稲子岳におけるヒメシャジンの食害状況



写真 4-59 稲子岳における矮小化したヤマホタルブクロ



写真 4-60 凹地に生育するダケカンバディアラインが顕著に現れる



写真 4-61 凹地周辺に生育するシラビソ  
剥皮が顕著



写真 4-62 凹地の状況；草が刈り込まれている



写真 4-63 凹地におけるバイケイソウの食害

#### 4-2.5 天狗岳南部の鞍部から本沢温泉、しらびそ小屋

天狗岳南部の鞍部から本沢温泉、しらびそ小屋に至る登山道は、写真 4-64 に示すようにシラビソやコメツガを主体とした針葉樹林が主に分布している。林内はやや暗く、林床には天狗岳南部の鞍部から本沢温泉に至る登山道の部分には主にシラビソやコメツガの実生が生育し、本沢温泉からしらびそ小屋に至る登山道には主にミヤコザサが生育している。シカの食害はほとんど見られなかったため、被害ランクはDとした。ただし、写真 4-65、写真 4-66 に示すように本沢温泉からしらびそ小屋に至る登山道周辺の一部ではミヤコザサが食害を受けていたり、シダ類が食害を受け、シカが嫌うクリンソウが小群落を形成している箇所が見られたため、このような箇所は被害ランクをCとした。

また、本沢温泉の周辺で、溪流沿いの開けた場所においては、写真 4-67 に示すようにやや激しいシカの食害が確認された。このため、当該箇所においてはシカが頻繁に出入りしていると判断し、被害ランクをBとした。

なお、天狗岳南部の鞍部付近は針葉樹林ではなく、写真 4-68 に示すように高山ハイデ及び風衝草原やダケカンバ低木林が分布しており、草本層はシカの食害に伴う群落構造の変化により、ミヤマノガリヤス等のイネ科草本が優占している。これらの箇所においては、写真 4-69、写真 4-70 に示すようにタカネナナカマドに顕著なディアラインが見られ、林床の草本は刈り込まれた状況になっていた。また、写真 4-71 のようなハイマツへの剥皮

がみられた。さらに、写真 4-72、写真 4-73 に示すようにイネ科草本以外にもクロウスゴ、クロミノウグイスカグラ、オンタデ、トウヤクリンドウ、コマクサ、ムカゴトラノオ、タカネヒゴタイ、バイケイソウ等の草本や、ミヤマホツツジ等の木本が食害を受けており、写真 4-74 に示すように、猛毒のハナヒリノキをはじめ、コケモモやイブキジャコウソウ等の一部の植物のみが食害を受けていない状況であった。このように、当該箇所においてはほとんどの植物が食害を受けており、植物の群落構造そのものが影響を受けていると判断されたことから、被害ランクを A とした。また、周辺のシラビソ林においても写真 4-75 に示すように剥皮が顕著な箇所が確認されたことから、このような箇所は被害ランクを B とした。



写真 4-64 登山道沿いの林内の状況  
シカの食害は見られない



写真 4-65 ミヤコザサの食害状況



写真 4-66 登山道沿いのシダ類の食害状況  
クリンソウが小群落を形成する



写真 4-67 本沢温泉周辺における食害の状況



写真 4-68 天狗岳南部の鞍部付近の状況  
高山ハイデ及び風衝草原、ケカンバ  
低木林が分布している



写真 4-69 タカネナナカマドの状況  
ディアラインが顕著に現れる



写真 4-70 ダケカンバ低木林の林床の状況  
草本が刈り込まれる



写真 4-71 ハイマツへの剥皮



写真 4-72 ミヤマホツツジ、クロウスゴの  
食害状況



写真 4-73 クロミノウゲイスカグラの食害状況



写真 4-74 ハナヒリノキの生育状況  
シカの食害を受けていない



写真 4-75 ダケカンバ低木林に隣接する  
シラビソ林;顕著な剥皮が確認される

#### 4-2.6 根石岳から夏沢峠、本沢温泉

根石岳から箕冠山の手前までは、根石山荘周辺にコマクサ、オンタデなどが、その周辺にコヨウラクツツジなどの混じるハイマツが生育している。ハイマツは食害を受けていないものの、写真 4-77 に示すとおり、コマクサには食害が認められ、一部踏み荒らしも確認された。この部分については食圧に弱いことを考慮し、被害ランクを B とした。

箕冠山周辺はシラビソを主体とする森林からなるが、写真に示すようにシラビソの立枯れが目立ち、それにより生じた空間に草地が点在する。この草地がシカの食害を受けており、被害ランクを C とした。

夏沢峠周辺にはイネ科を中心とした草地が存在するが、写真 4-78 に示す通り、シカの食害を受けて、斑状の草原が生じている。群落構造も変化しているものと判断し、被害ランクを A とした。

夏沢峠から本沢温泉にかけてはシラビソやコメツガを主体とした針葉樹林が分布している。林内はやや暗く、本沢温泉近くまで目立った食害は認められないことから、被害ランクを D とした。



写真 4-76 根石山荘周辺の状況（正面：箕冠山）



写真 4-77 コマクサの食害状況



写真 4-78 箕冠山周辺のシラビソの立枯れの状況



写真 4-79 箕冠山周辺の状況



写真 4-80 食害を受けた草地の状況（森林側）



写真 4-81 食害を受けた草地の状況（小屋側）

#### 4-2.7 夏沢鉱泉からオーレン小屋、夏沢峠

夏沢鉱泉からオーレン小屋へ向かう登山道は、大半が鳴岩川に沿うルートで、溪流沿いにはダケカンバ、ケヤマハンノキなどが生育し、林床にはイタドリ、ヤツタカネアザミ、イワノガリヤス、ヒメノガリヤスなどのイネ科草本などが繁茂している。この周辺では、写真 4-82、写真 4-83 に示すように、至るところでシカの食跡が確認された。特に、写真 4-84、写真 4-85 に示すように、オーレン小屋周辺の食害は顕著で、その範囲はテント場からやや上流の草地まで及んでいる。小屋の裏側の森林の境界部ではシカの踏み荒らした跡に加え、糞も多く確認されたことから、シカは小屋のかなり近いところで常に活動していることがうかがえる。このような状況から、オーレン小屋周辺の被害ランクをAとした。また、夏沢鉱泉付近もオーレン小屋ほどではないが、シカの食害が目立つため、被害ランクをBとした。

夏沢峠近くではシラビソを主体とする針葉樹林となり、剥皮がやや目立つことから、被害ランクはCとした。



写真 4-82 イタドリの食害



写真 4-83 ヤツタカネアザミの食害



写真 4-84 オーレン小屋前のお花畑の食害



写真 4-85 オーレン小屋裏の草地の食害



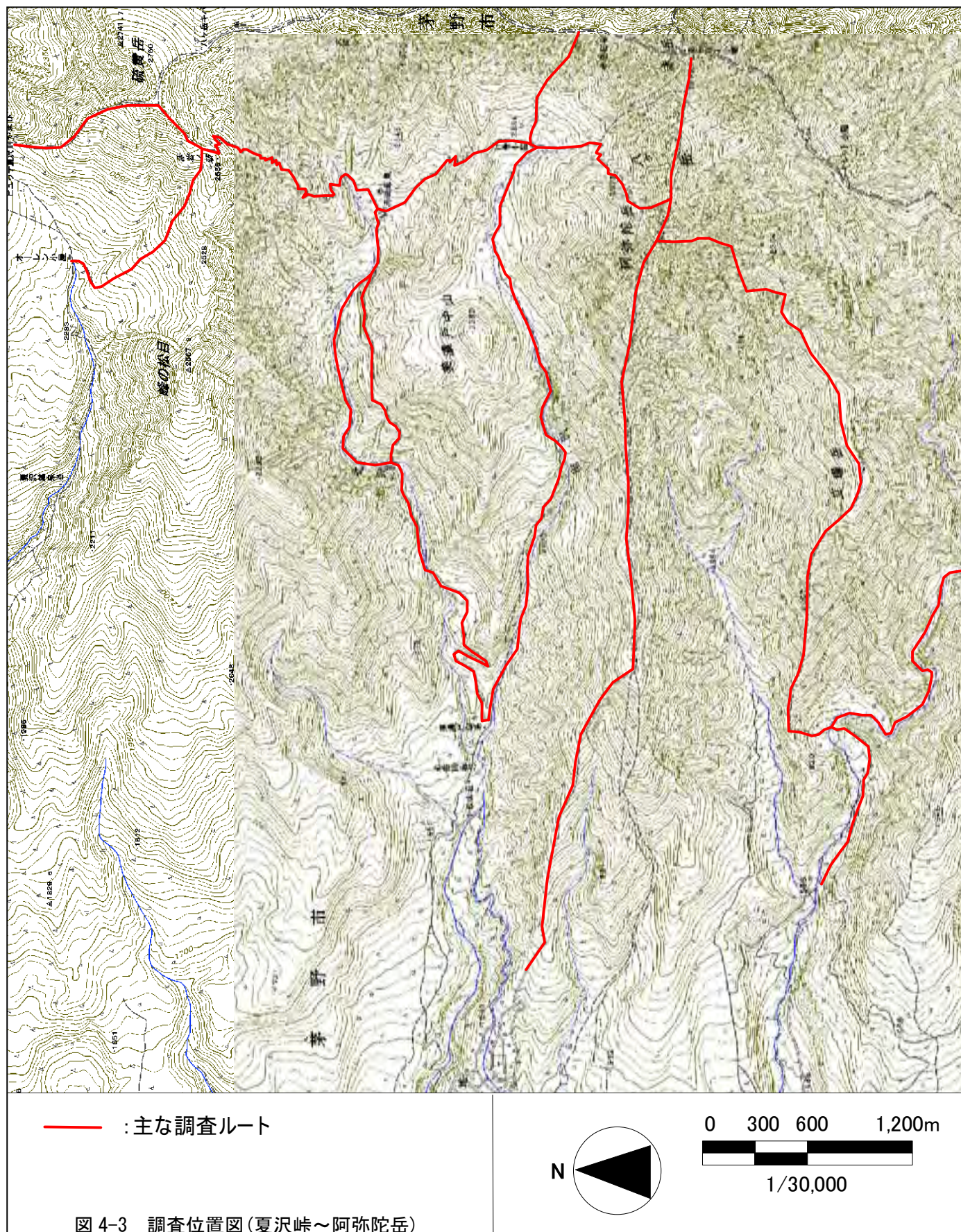
写真 4-86 夏沢鉱泉前草地の食害



写真 4-87 草本を食べるカモシカ

#### 4-3 夏沢峠から阿弥陀岳（ハヶ岳の西側）

夏沢峠から阿弥陀岳までの間の登山道沿いを踏査し、シカによる被害状況を調査した。以下に、調査ルートを示す。



#### 4-3.1 夏沢峠及びオーレン小屋から赤岩の頭、赤岳鉱泉

夏沢峠から赤岩の頭に至る登山道は、写真 4-88 に示すように高山ハイデ及び風衝草原が分布している。これらの分布範囲においては、シカの食害はほとんど見られなかったため、被害ランクを D とした。ただし、夏沢峠周辺はダケカンバ林が分布しており、写真 4-89 に示すように顕著なディアラインが確認された。また、写真 4-90 に示すように林床もシダ類が優占しており、他の植物の生育はほとんど見られなかったことから、シカの食圧により群落構造が単純化していることがうかがえる。このため、夏沢峠周辺はシカの食害により群落構造が変化していると判断し、被害ランクを A とした。

オーレン小屋から赤岩の頭までの登山道は比較的傾斜が緩やかな尾根筋を通っており、この周辺には主にシラビソ林が分布している。このシラビソ林の林内は写真 4-91 に示すように比較的暗く、林床にはあまり草本が生育していないことから、シカの餌資源は少ないと考えられる。このため、シカの食害はほとんど見られず、被害ランクを D とした。

登山道は標高 2,550m 付近で尾根から沢に入り、これを上りきって赤岩の頭に至るが、植生も地形の変化とともにシラビソ林からダケカンバ林へと変化し、赤岩の頭に至る手前で、ハイマツ林へと変化している。ダケカンバ林にはディアラインが発達し、下層のイネ科草本が優先する草原には顕著な食害が認められることから、被害ランクを B とした。また、ハイマツ林では食害が認められないことから、被害ランクを D とした。

赤岩の頭から赤岳鉱泉に至る登山道の周辺も主にシラビソ林が分布しているが、写真 4-94 に示すようにシラビソの剥皮が見られる箇所が多く、被害ランクを C とした。ただし、写真 4-95～写真 4-97 に示すように赤岩の頭付近の斜面や赤岳鉱泉付近の草地においてはイネ科草本が優占している状況が確認され、シカの糞も確認されたため、シカの食圧が高く、シカが頻繁に出入りしていると判断し、被害ランクを B とした。また、赤岳鉱泉付近のジョウゴ沢等の溪流付近においては、写真 4-98、写真 4-99 に示すようにイネ科草本が優占し、シカが嫌うキオンも食害を受けている状況が確認されたため、シカの餌資源が不足するほどシカの食害が進行していると判断し、被害ランクを A とした。



写真 4-88 高山ハイデ及び風衝草原の状況  
食害は見られない



写真 4-89 ダケカンバ林の状況  
ディアラインが発達する



写真 4-90 ダケカンバ林の状況  
林床にシダ類が優占している



写真 4-91 登山道沿いの林内の状況  
シカの食害は見られない



写真 4-92 ダケカンバ林の状況  
林床にイネ科草本が優占する



写真 4-93 ハイマツ林の状況



写真 4-94 シラビソ林の状況  
剥皮が確認される



写真 4-95 赤岩の頭付近の斜面  
イネ科草本が優占する



写真 4-96 赤岳鉱泉付近の草地の状況  
イネ科草本が優占する



写真 4-97 赤岩の頭付近の斜面で確認された  
シカの糞



写真 4-98 ジョウゴ沢付近の草地の状況  
イネ科草本が優占し、他の植物の食害が著しい



写真 4-99 ジョウゴ沢付近の草地の状況  
キオンが食害を受ける

#### 4-3.2 美濃戸山荘から赤岳鉱泉（北沢）

美濃戸山荘から赤岳鉱泉に至る登山道は、写真 4-100 に示すように主にコメツガ林やシラビソ林が分布しているが、登山道が溪流沿いに通っている箇所が多く、上空が開けているため、登山道沿いに草地が発達している箇所が多い。このため、シカの餌資源も多く、ほとんどの箇所でシカの食害が確認された。

これらの食害の中で、写真 4-101 に示すように、草本の先端が食害を受けている等の軽微な食害が確認された箇所は被害ランクを C とした。また、写真 4-102、写真 4-103 に示すように、葉の部分がほとんど食べられていたり、ディアラインが発達していたりする等、シカの食圧が高いと考えられる地点は、被害ランクを B とした。

北沢の溪流沿いの登山道と山腹斜面を迂回する登山道との合流地点から、赤岳鉱泉の周辺や赤岳鉱泉に至るまでの登山道は特にシカの食害が著しく、写真 4-104～写真 4-106 に示すように草本のほとんどがシカの食害を受け、シロバナヘビイチゴ等の一部の草本がわずかに生育している箇所や、シカが嫌うキタザワブシも食害を受けている箇所、イネ科草本が優占し、他の植物はほとんど生育していない箇所等が確認された。このため、この範囲は特にシカの食圧が高く、植生の群落構造に影響が出ている箇所と判断し、被害ラン

クをAとした。



写真 4-100 登山道沿いに分布するシラビソ林



写真 4-101 食害の状況;オクヤマコウモリやクロクモソウの先端が食害を受ける



写真 4-102 登山道沿いの草地の状況  
イタドリが激しく食害を受けている



写真 4-103 登山道沿いのオノエヤナギ  
ディアラインが発達する



写真 4-104 登山道沿いの草地の状況  
ほとんどの草本が食害を受けている



写真 4-105 キタザワブシの食害



写真 4-106 登山道沿いの草地の状況；イネ科草本が優占し、一部は刈り込まれている

#### 4-3.3 美濃戸山荘から行者小屋（南沢）、地蔵の頭

美濃戸山荘から行者小屋に至る登山道は、写真 4-107 に示すように主にコメツガ林やシラビソ林が分布しているが、写真 4-108 に示すように美濃戸中山の南側を中心にダケカンバ林も分布している。

シラビソ林やコメツガ林の純林で樹冠がうっ閉しているような箇所は、写真 4-107 に示すように林床の植生が乏しく、食害はほとんど確認されなかったため、被害ランクを D とした。

一方、写真 4-109、写真 4-110 に示すようにオンタデやイタドリ等の一部で食害が見られる箇所は、被害ランクを C とした。また、写真 4-111 に示すように植生の草丈が低く、シカの食痕が目立つ箇所はシカの食圧が高いと判断し、被害ランクを B とした。

なお、ダケカンバ林に隣接するシラビソ林内の草地においては、写真 4-112 に示すようにシカの食害により草本が刈り込まれ、背丈の低いシロバナヘビイチゴ以外はほとんど生育していないような状況が確認された。当該箇所ではシカが嫌うバイケイソウも食害を受けており、シカの餌資源が不足するほどシカの食害が進行していると判断し、被害ランクを A とした。本調査の結果から、ダケカンバ林においてはシカの食害が著しい箇所が多く見られることから、当該箇所は隣接するダケカンバ林からシカが頻繁に出入りしているものと推測される。

行者小屋から地蔵の頭に至る登山道は、行者小屋の付近は写真 4-113 に示すように主にシラビソ林が分布し、地蔵の頭付近は写真 4-114 に示すようにダケカンバやハイマツの低木林が分布しているが、シカの食害はほとんど確認されなかったため、被害ランクを D とした。



写真 4-107 登山道沿いに分布するシラビソ林



写真 4-108 美濃戸中山の南側に分布する  
ダケカンバ林



写真 4-109 オンタデの食害



写真 4-110 イタドリの食害



写真 4-111 食害の状況；草丈は全体的に低い



写真 4-112 シラビソ林内の草地の状況  
草本が刈り込まれている



写真 4-113 行者小屋付近のシラビソ林



写真 4-114 地蔵の頭付近のダケカンバ、  
ハイマツ低木林

#### 4-3.4 赤岳鉱泉から行者小屋、中岳

赤岳鉱泉から行者小屋に至る登山道は、傾斜が比較的緩やかな斜面を通過しており、写真 4-115 に示すように周辺には主にシラビソ林が分布している。シラビソ林内では写真 4-116 に示すように剥皮が見られたり、ウラジロナナカマドがシカの食害を受けていることが確認されたが、いずれも食害の程度は比較的軽微であるため、被害ランクをCとした。

一方、行者小屋から中岳に至る登山道は、写真 4-117 に示すように周辺は主にダケカンバ林となっている。シカの食害は容易に確認され、ほとんどの箇所がイネ科草本が優占した草地となっている。これらの中で特にシカの食害が著しく、写真 4-118 に示すように植生が消失したことに伴い表層崩壊の発生が見られるなどの変化が生じている箇所は、被害ランクをAとした。また、それ以外の箇所で、写真 4-119 に示すようにイネ科草本以外の植生の生育もわずかに認められるような箇所は被害ランクをBとした。

なお、行者小屋から中岳に至る登山道周辺には自動撮影カメラを合計で5台設置したが、写真 4-120 に示すように、シカのねぐらと思われる箇所に設置した自動撮影カメラにより、夜中にシカが2頭撮影された。このことから、当該箇所におけるシカの生息密度が高いことがうかがえる。



写真 4-115 シラビソ林の状況  
剥皮が確認される



写真 4-116 ウラジロナナカマドの食害状況



写真 4-117 行者小屋から中岳に至る登山道  
沿いに分布するダケカンバ林



写真 4-118 表層崩壊の発生状況  
植生の消失に伴い表土が流出している



写真 4-119 行者小屋から中岳に至る  
登山道沿いの状況；イネ科草本以外の  
草本もわずかに生育する



写真 4-120 シカのねぐらと思われる箇所に設置し  
た自動カメラにより撮影されたシカ

#### 4-3.5 美濃戸口から阿弥陀岳、赤岳及び阿弥陀南稜

美濃戸口から御小屋山に至る登山道は、比較的なだらかな尾根道で、東側がカラマツの人工林、西側および御小屋山頂周辺がコメツガ、ウラジロモミなどからなる亜高山帯の針葉樹林となっている。

カラマツ林内は比較的明るく、餌となる草本類も豊富であることから、シカの生息域となっており、この付近ではカラマツは食害を受けていないものの、下層植生はシカが好まないレンゲツツジが目立つなど、シカの食圧により変化してきている。また、カラマツの疎林内にはシカ道が確認された。このようにシカの痕跡が比較的容易に確認されることから、被害ランクはCとした。なお、調査時にはシカの鳴声に加え、写真 4-123 に示すように、カモシカが最下部の登山道沿いで確認された。一方、亜高山帯の針葉樹林は林分密度が高く、樹冠がうっ閉しており、林床は地衣類が主体で、シカの餌資源は少ないことから、食害はほとんど認められない。

御小屋山からの登山道は、尾根沿いにまっすぐに阿弥陀岳まで続いている。この間は、標高 2,550m 付近まではコメツガ、シラビソ、オオシラビソなどからなる針葉樹林が主体

で、それ以上はハイマツ帯となっている。

尾根沿いの針葉樹林は写真 4-124、写真 4-125 に示すとおり、林床は地衣類が主体で、シカの餌となる草本類が少なく、シカの食害はほとんど認められないことから、被害ランクを D とした。

ただし、写真 4-126～写真 4-128 に示すように、尾根沿いのダケカンバが混じる森林やダケカンバ林では、林床のイタドリ、ヤマヨモギなどの草本類を中心にシカの食害が見られることから、被害ランクを C とした。また、写真 4-129、写真 4-130 に示すように、標高 2,400m 付近のダケカンバ林では、林床がイネ科草本類のみで構成されており、シカの食圧による群落構造の変化が想定されたことや、近くのシラビソの幼木が剥皮により枯死しているのも確認されたことから、被害ランクを B とした。

阿弥陀岳付近のハイマツ帯には食害が確認されなかったことから、被害ランクは D とした。ただし、写真 4-132～写真 4-134 に示すように、阿弥陀南稜下方のダケカンバ林内にはシカ道が認められ、シロウマオウギ、イタドリ、イワベンケイなどで食害が認められたため、被害ランクは C とした。なお、阿弥陀岳山頂(2,805m)に生育しているバイケイソウやイワノガリヤスには食害が認められており、御小屋尾根方面からシカが山頂に達したものと考えられる(写真 4-135)。また、中岳の南斜面に広がる崩壊地では多くのシカ道が確認され(写真 4-136)周辺の森林がシカの棲家となっていることがうかがえる。

阿弥陀岳から中岳を経て赤岳に至る登山道は、写真 4-137 に示すように砂礫地や岩場があり、それ以外は概ねハイマツ帯で、シカの食害は認められないことから、被害ランクを D とした。ただし、砂礫地の部分を中心に生育するコマクサ、タカネヒゴタイなどの一部に食害が認められたことから、被害ランクを C とした(写真 4-138)。



写真 4-121 カラマツ林内の状況  
レンゲツツジが目立つ



写真 4-122 カラマツ疎林（崩壊跡地）の状況  
シカ道が認められる



写真 4-123 登山道沿いで確認されたカモシカ



写真 4-124 亜高山帯の針葉樹林の状況



写真 4-125 針葉樹林の状況  
林床は地衣類が主体



写真 4-126 ダケカンバとの混交林の状況  
シカの食害により、草丈は低い



写真 4-127 ダケカンバ林の状況  
シカの食害により、草丈は低い



写真 4-128 イタドリ食害



写真 4-129 ダケカンバ林の状況(標高 2,400m付近)  
イネ科草本主体で、林内にはシカ道がある



写真 4-130 枯死したシラビソ  
シカの剥皮が原因



写真 4-131 阿弥陀南稜線の状況



写真 4-132 阿弥陀南稜線下方のダケカンバ林  
シカ道が認められる



写真 4-133 シロウマオウギの食害



写真 4-134 イワベンケイの食害